〈編集後記〉

寒い冬

今年は例年になく寒い冬となった。これも温暖化の表れなのだという。難しい議論は気象学の山師達にまかせるが，大阪市内でも何回か雪が舞う日があり，白く輝く美しい金剛葛城山系を研究室から望む日も多かった。小中学生の耐寒登山もさぞかし賑わったことと思ったが，実はこれは年寄りの考え方らしい。子ども達が通う現実の学校では，体力に自信のある若い先生が少ない上，子ども達の体力も落ちてきている。恒例の耐寒登山を取り止める学校が増えているという。そういえば，私の奉職する学校でも，健康スポーツ科目の先生が嘆いておられたのを思い出す。曰く，「学生の体力が落ちていて，まともにスポーツの実技授業ができないことがある」，「学生の体力の衰えを毎年記録しておきたいのだが，少ない教員数，限られた授業時間，および皆無の予算措置の状況下ではこれもできない」。私はフィールドワークを主要な手法として生態学に取り組んで来た者の一人であるが，若い人の体力の劣化には危機感を感じている。数学や物理の先生が，若者の理科離れを嘆かれてから久しい。数学オリンピックの順位も中国やシンガポールに抜かれてしまった。理科離れと体力の衰えは，将来の生態学や自然保護にとってダブルパンチとなるかも知れない。

日本経済はデフレに突入し，日本の不良債権が世界恐慌の引き金になるのではないかと言われている。私が奉職中の学校では，定員削減，独立行政法人化に伴う研究費の削減や重点配分などで学内が揺れている。文部科学省は将来的に特許を取れる研究を優遇するという。自然保護の研究で特許を取るとはどのようなことを意味するのであろうか？今年の冬のように，どこを見てもお寒い話ばかりである。

KONC 会誌 22 巻 2 号を何とか印刷できてほっとしている。とはいえ，本誌は 12 月末には印刷を完了して会員諸氏のお手元に届けられるべきはずのものであった。今回も原稿が集まらず会誌の出版に大幅な遅延を生じさせてしまった。シンポジウムでお話下さった先生方は忙しすぎた。編集の不手際を編集事務局として深くお詫び致します。次回は期日通りに会誌を印刷できることを願うが，手元にある投稿原稿は一編しか無い。これもお寒い話である。

本巻号の特別査読者

編集委員以外に投稿論文の査読をお願いした，矢部隆先生および菅沼孝之先生に深く感謝致します。

（山倉拓夫）